



# 森のなかま

2014年4月号

NO. 72 (継続217号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

## 第5回森林文化講演会 『もっと豊かな森・役に立つ森を創ろう』

— 森と人との歴史から 接続可能な森と社会を考える —

講師：『森林飽和』の著者 太田 猛彦 氏

< 森林文化部会 理事 高橋 修 9期 >

平成26年2月16日(日)に桜美林大学淵野辺 PFC において、東京大学名誉教授・太田猛彦氏をお招きし、森林文化部会第5回講演会を開催いたしました。

今回は講演会直前に大雪となり、交通機関の乱れている中、101名(応募者111名)の方のご参加をいただきました。

今年の講師は、治山・治水をご専門とされており、冒頭は3年前の東日本大震災における防災林の状況から話が始まり、1950年頃の河川より森林の状況にさかのぼることで、過去より森林と日本人の生活が密接に関連付けられていたとの解説がありました。

更には燃料、肥料、衣食住の変化により森林の役割が大きく変わってきていることへの危惧や問題点への解説があり、これからの森林について多面的機能の持続的利用の重要性(使う森と守る森)の話など、今までと違う視点での解説も多くあり、いろいろな角度から考えさせられる講和であったと思います。

参加者のアンケートにも続編の希望が多く寄せられており、期待に添えることができたのではないかと考えています。

参加していただいた方々には貴重な時間をいただき、誠にありがとうございました。



太田 猛彦 氏 プロフィール  
1941年 東京生まれ  
東京大学名誉教授  
元職：  
日本学術会議会員、日本森林学会会長、  
砂防学会会長、日本緑化工学会会長





主催 : NPO法人かながわインストラクターの会  
 後援 : 神奈川県、相模原市、神奈川県森林協会（支援）  
 公益財団法人 かながわトラストみどり財団  
 公益財団法人 相模原しみどりの協会  
 協力 : 桜美林大学

（写真提供 : 森林文化部会）



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。  
 全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

## ■ ■ ■ 新掲載のお知らせ

今月号より定期掲載(毎月の連載ではありません)で新たに  
 『香りの図書館館長“谷田貝 光克 氏”』に御執筆いただく事になりました。  
 木質材料化学、天然有機化学、木材成分利用等への造詣でどのような事を書いて頂けるのか  
 (飛び出してくる)、楽しみです!!

執筆題目は

### 『 森のめぐみ (シリーズ) 』

1回目 森のめぐみ (今月号の掲載は3ページをご覧ください)

2回目以降の題目は未定です。

\*\*\*\*\*

<香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏のプロフィール>

東京大学名誉教授、 前秋田県立大学教授、 木材高度加工研究所所長  
 炭やきの会会長、 グリーンスピリッツ協議会会長

・参考) 香りの図書館ホームページ

<http://www.fragrance-j.co.jp/library/>

・参考) 木材高度加工研究所ホームページ

<http://www.iwt.akita-pu.ac.jp/Personal/yatagai/Japanese/default.php>





## 森のめぐみシリーズ

枠組は桜の小枝です

## 第1回 森のめぐみ

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

厳しかった寒さが遠のき木々が芽吹き草花が色とりどりの花を開く春になりました。木々のこずえでは小鳥がさえずり、野原には蝶が舞っています。暖かな日差しのもと、思わず外に飛び出したくなるような時節です。こんなときには迷わず外に出て歩こうではありませんか。街路の植え込みの草花のつぼみもふくらみ、あるいはすでに花をつけているものもあるかもしれません。近くの公園では萌黄色に光る木々の息吹に触れることになるでしょう。少しばかりの時間が許せば近くの森や林にも足を踏み入れたらいかがでしょうか。家の中では見られない新しい発見があるかもしれません。

そこでは冬の寒さから目をさまし、明日への命づくりに躍動する木々の息吹に触れること、請け合いです。そして、なによりも澄んだ空気に心洗われることでしょう。春先の少しばかりひんやりとした肌にあたるそよ風にも頭がすっきり、心地よさを感じるはずです。そんなときには胸いっぱい深呼吸。森の空気を吸いとってください。明日への活力がみなぎります。そしてさらに時間が許せば近くの山にハイキング。ひと汗かいたあとのおにぎりの味は格別です。森の命、それは私たちに多くのものを与えてくれます。

わが国ほど緑に恵まれた国はほかにはありません。わが国は森林率 68%の世界有数の森林国です。それが証拠に高層ビルが立ち並ぶ都会の中からも電車に一時間も揺られれば緑多い山のふもとにたどり着くのです。そのような地にはるかに遠い昔から私たちは森の恵みの中で育まれてきました。森林は憩いとやすらぎの場を提供してくれるだけでなく、住まいの材料はもちろんのこと、木の実、山菜などの食料や薬用となる植物を提供し、炭や薪などのエネルギー、さらには染料、樹脂、精油などの特用林産物を提供してくれます。

私たちは森で採れるものだけを森から受けているだけではありません。根を地中にしっかりと張った森の木々は台風などの大雨の時には土



みどり濃き森林



砂崩れを防ぎ、風をやわらげてくれます。

そして根に蓄えた水は山を下り、田畑を潤し、町の人たちに飲料水を供給し、海に流れ出た山の養分を海に運び魚を育てます。私たちは森の恵みの中で育まれているのです。このシリーズではそのような森の働き、そして森の恵みについて一緒に考えることに致しましょう。

◎写真 谷田貝氏 提供

◎イラスト 神奈川県 副教材用

紙芝居 “水は森林からやってくる” より

## “ 私の認識 野鳥の執筆終了に寄せて そして感謝状 ”

■【会報がPC化された初期のころに私の認識の手書き原稿をPC化していました。】

● 私の認識 野鳥の 終了に寄せて

< 龍頭 祥江 1期 >

高橋さん、10年以上に渡り本当にありがとうございました。毎月、時間をかけて調べて下さった野鳥の観察、調査、特徴を細かく分かりやすく教えて頂きありがとうございました。自宅のお庭に来る鳥や、通勤途中、どこを歩いていても注意深く耳を澄ませ観察する事を心がけていらっしゃるのには、本当にすごい！と思います。

私は通勤や活動の道中、耳を澄まして注意深く歩いた事はありませんでした。子供の頃から、父に連れられハイキングやキャンプ等色々楽しんでいました。大人になってからも山行を重ねていましたが、インストラクターになったある日、活動の時にここに来るまでにどんな鳥が囀っていたかわかりましたか？と聞かれました。私はまったく気が付きませんでした。ただ歩いていただけで聞こえてくる音にはまったく関心がなかったのだと気づかされました。本当にショックでした！なんて今までもったいない時間を過ごしたのだろう！これからは注意深く目と耳を使って生活しようと決めました。それからは、通勤のときも電車やバスに乗っている時も、あ～そろそろ桜が咲くなあ～ あれ？もうぐいす？家の側でカッコウが鳴いたときには、山にいるみたいだなあ～、でも託卵するずい鳥だよなあ～なんて考えるようになりました。子供と一緒にいる時も、これは木瓜だよ！つくしがあるね・・・とか声をかけるようにしています。

毎月掲載される“わたしの認識”は野鳥の教科書でした。120回も続けてくださり、お疲れさまでした。

原稿を常にストックして早々に送って下さっていました。他の活動でもお忙しいのに本当に感謝です！高橋さんの知識を惜しげもなく教えて下さり、どれだけ多くの人の心を豊かにしたことか、残念でなりませんが、今までの情報を思い浮かべながら日々生活していきたいと思います。

本当に長い間ありがとうございました！！

● 高橋 恒通 さん への感謝状

■ その1

【(2010年)8月号“その80”からイラストを手掛けていました。

初めは“はる または 春”というペンネームでした。】

< 大塚 晴子 11期 >

私の認識のイラスト担当の大塚です。野鳥に疎い私は、絵を描きながら色の鮮やかさや繊細な羽根の模様に魅了されてしまいました。

実は、コラムの内容は「森のなかま」が届くまでは知らず、観察(描写?)後に解説を別々に学べて、毎回楽しみながら参加していました。

そして何より執筆からは、高橋さんの温かい人柄の伝わり、連載が終わるのは本当に名残り惜しいですが、これまで様々な鳥の世界を教えてくれた高橋さんに感謝しています。

本当にありがとうございました、そしてお疲れ様でございます。これからも私たちみんなに、本物の鳥の観察の仕方をぜひ教えてください！！

■ その2

【(2012年)7月号“その100”から 手書き⇒PC化をしていました。

ラスト2号で初めて名前を表記しました。】

< 加藤 暖子 12期 >

水辺を歩いていると、水鳥が遠くの水面に浮かんでいるのが見えます。あの鳥は何という名前だろう？もしかしてこの前の高橋さんの原稿で読んだやつではないか…。特にカモを見ると気になって仕方がない、そんな楽しく困った(?)性質になったのは、「私の認識」の原稿に関わるようになってからです。

短い間ですが、「私の認識」のWord化担当をしました。高橋さんの書く文字はいつも綺麗で読みやすく、鳥たちの姿を語る言葉は愛情に溢れたもので、独特の味わいがあり、読むほどに癖になってしまいました。今回で連載が最後になるのは、本当に残念です。連載が終わっても、私達に鳥達の魅力をどうぞ伝え続けて下さい。

ありがとうございました！



## 私の認識

## 野鳥その120（最終回） 高橋 恒通 3期

私の記憶が正しければ、本稿の第1回、即ち“野鳥その1”が「森のなかま」に載ったのは、平成14年（2002年）7月24日発行の第81号の筈です。従って“野鳥その120”が、平成26年（2014年）4月1日発行の第217号なので、足掛け12年に及んだ訳であります。

顧みれば、事の発端は当時、広報担当をしていた同期（3期）の吉山氏から「会誌のネタが不足しているので鳥の事を何か書いて呉れませんか？」との打診を受け、初めは軽い気持ちで「野鳥に興味や関心を持って貰えれば・・・」と思って「書いてみましょう」で始まりました。

その頃、森林インストラクターの会は、7期生までで構成されており、8期生は養成中だったと認識しています。

因（ちな）みに、私の野鳥拙稿その1が載った頃の会誌には、かながわ森林インストラクターの一期生で、神奈川県知事認定番号1番の飯村武先生が“森の広場”と題するエッセイを連載されておりました。

それは囲み記事形式のものから、会誌巻頭を飾る基調講演（キーノートスピーチ）の如きものまであり、内容は森林、林業、樹木などの事から鹿の話や、幼少の頃に愛読された、田河水泡の「のらくろ」の話など巾広く多彩でありました。然も我々インストラクターのモチベーションアップに資する格調と、篤く深い示唆に富んだものでした。これに比べて拙稿は、野鳥の記事ですが学問性、学術性の欠落型です。

その代わり、文中にオヤジギャグをふんだんに取り入れて肩の凝らない気楽な読み物形式でスタートしました。

これでインストラクター同志が野鳥に興味や関心を持つキッカケとなれば・・・と虫の良い料簡で続けて来て、気が付けば十有余年120回に及んでしまったと言う訳であります。

甚だ勝手ながら、私が120回で断筆する理由は、①自分が見聞きした野鳥はほぼ紹介し終った、②区切りの良い節目、の2点です。尚、未紹介の野鳥は、種類と数の多いシギ・チドリの仲間、カモメ、アジサ

シ、ウミスズメの仲間、アホウドリ、ミズナドリ、ウミツバメの仲間など沢山残っている事は承知しています。然し実物を見る機会が少なく、植生や環境との関係が私には良く判らない為です。

所で、私はパソコンが使えず、ケイタイ使わず、なので鳥友や刀剣友達から“歩く化石”と呼ばれています。故に原稿は、参考書、辞書、虫眼鏡、そして鉛筆を用いた手書きです。

お陰さまで指先を使う為に惚（ぼ）けの進行を十年余り遅らせて頂いた事を感謝しています。

感謝と言えば、手書き原稿をパソコンで打ち込み校正までして下さった広報の方々（北村さん（6期）、村井さん（9期）をはじめ龍頭さん（1期）・・・加藤（暖）さん（12期））等々、またイラストを書いて頂いた大塚（晴）さん（11期）皆様方に感謝をいたします。

そして又、私の毎号の拙文をご愛読して下さい下さった同志の会員の皆様、誠にお疲れさまでした。

最後になりますが、拙文を十年余りに渡り連載を許して下さい下さった、「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」が有する寛大さと懐の深さに、深甚なる敬意を表しております。併せて、この会を誇りに思っていると共に、会に籍を置く我が身の僥倖（ぎょうこう）を決して忘れてはならないと心に刻んでおります。

永い間、本当にありがとうございました！！

（完）



シリーズ最後のイラストは  
日本を代表するトキ（鴛・朱鷺） Nipponia nippon

◎ イラスト 広報部 大塚 晴子（一時期 ペンネーム 春）

◎ PC 化 広報部 加藤 暖子（今まで名前を表記しておりませんでした。）

## 活動短信



今回の掲載は  
1月30日～2月21日ですが、  
投稿頂いた中には、投稿タイミング  
でそれ以外のものや、紙面の都合  
上、次号以降の掲載になるものもあり  
ます。予めご了承下さい。

## ◆ 平成25年自然環境保全活動

## (箱根仙石原ススキの刈払)

日 H25年12月4日(水) 晴れ

場 箱根町仙石原

参 一般参加 48名

財 壺崎様、鳥海様 看 青木様

イ L小沢⑨、高崎④、齋藤⑥、小野⑦、白畑⑦、  
内野⑨、村井⑨、杉崎⑩、青木⑩

小田原駅西口に8時集合しバスで仙石原浄水センターに移動、準備を整え5分ほどの作業現場へ。当日の朝は霧につつまれていたが作業が始まる頃には天気も良いくらか残る紅葉のなか背丈ほどのススキ刈りを行った。昼は箱根ビジターセンターでお弁当をひろげ、食後はビジターセンター内の見学、再びバスで移動し箱根高原ホテルで日帰り温泉に入り、小田原駅15時すぎの解散となった。紅葉もあり温泉に入り参加者一同満足の様子の一日でした。

(記 青木 克之 10期)

## ◆ 「森の教室」IN 境木幼稚園

日 H25年12月16日(月)9:00～12:00、晴れ

場 境木幼稚園(横浜市保土ヶ谷区)

参 園児 367名 保育士 23名 計 390名

スタッフ 国土緑化推進機構(青木常務理事)1名  
かながわトラストみどり財団(内海課長他1名)

リミックス・プロデュース 石村様 他5名

イ L村井⑨、森本⑤、渡部⑦、中島⑨

国土緑化推進機構・かながわトラストみどり財団共催で実施される「森の教室」(どんぐりくんと森の仲間たち)。園児が遠足で拾ってきた「どんぐりを用意されているポットに一人2個蒔く、育ってきた苗は2年後に森に返す」運動。全国で既に40回実施されているとのことだが、神奈川県では初めて開催された。

我々は「どんぐり準備」「どんぐりの蒔き方指導」「どんぐりを蒔いたポットの後片付け」を行った。始めに「どんぐりの話、蒔き方」の説明を全員に行った後班作業に入った。分けられた班が10班あったため、手分けをして一人で2～3人の指導を行った。370名の園児が保育士の指示で一斉に作業に入り我々は戦争状態だったが、どんぐりが蒔かれた370個のポットが見事に並び、時間内に終了した。

(記 渡部 公 7期)

## ◆ 小田原市立下中小学校 間伐体験

日 1月30日(木)、雨

場 小田原市いこいの森周辺

参 小学5年生82名、スクールボランティア6名

スタッフ 小田原市役所環境課4名

講師:小田原市森林組合3名

イ L有坂⑧、高橋③、齋藤⑥、伊藤⑦、武者⑦

酒井⑩、杉崎⑩、西出⑫、渡辺(敏)⑫

小田原市環境政策課企画、下中小学校の環境学習事業での間伐体験。

12時過ぎからポツポツ降る雨のなか、午後1時過ぎに2台のバスに乗り学校の生徒が到着。傘を差して約30分かけ作業現場に向けて歩中、だんだんと「雨あしがつよくなってきた」現場到着。早速、森林組合の方々により、チェーンソーによる「間伐」デモンストレーションが始まり見学する。その後、各班別にインストラクターが紹介されて、予め「間伐」して用意された場所に向かい、倒してある木の<枝払い>のあと<2mの玉切り>体験。皆が傘を放りだし、雨に濡れての作業で約20分、雨が激しくなってきたので時間を切り上げて終了。森林組合の方々による玉切りされた「材木の運び出し」の実演見学をした後、全ての体験が終了した。雨の中での作業で足元がすべる事のないよう、またノコギリの手元が滑ってケガをすることがないよう細心の注意を払っての作業でした。

厳しい条件の中での作業でしたがヒヤリハット、また、一人もケガすることなく終了した。

(記 伊藤 恭造 7期)

## ◆ 県立山北高等学校

## 社会人講演会(足柄グリーンサービス)

日 1月30日(木) 12:50～15:10、雨

場 山北高等学校 体育館

参 398名(高校生390名、教師8名)

スタッフ 足柄グリーンサービス 高杉様、藤原様

イ L柏倉④、(見学 村井⑨)

高等学校の要請により「神奈川の森林と林業」という標題で講話を行う。

始め、南足柄グリーンサービスの社員より「21世紀の森」における指定管理者としての業務内容について説明があり、その後、上記の内容について4つのテーマを掲げ、パワーポイントを使って話を進める。要点は以下の通りである。(生徒にレジュメ配布)

①「森林」についての概要説明

②森林の機能 保安林制度と私たちの日常生活を支えている森林の公益的機能、森林を構成している物、食物連鎖、森林生態系について

③神奈川の森林の実態 山北町と県内各地の人工林の実状

## ④森林を育てる ボランティア活動による「森林づくり活動」の紹介

場所、人数、時期等の検討課題と共に生徒の意欲は窺えず、低調であった。用意した中で、直径20～25cmのスライスしたヒノキ材(6枚)は教員に好評でお土産とした。

(記 柏倉 紘 4期)

## ◆ 三の丸小学校環境学習事業 間伐体験

日 2月4日(火)8:00～12:00

場 小田原市いこいの森周辺

参 34名(大人3名 子供31名)

スタッフ 小田原市森林組合 小泉様、佐久間様、大森様

イ L武者⑦、白畑⑦、阿部⑧、小沢⑨ 青木⑩

8時に小田原わんぱくランド駐車場に集合、8時30分に小学生を乗せたバスが到着、徒歩で25分程の、いこいの森周辺の作業現場へ森林組合の方々すでに待機しており、小田原市環境政策課職員の説明により作業開始となった、まず森林組合の方が、スギとヒノキを一本ずつチェーンソーで伐倒し、デモンストレーションを行った、その後小学生が五班に分かれ倒れている木を玉切り、枝はらいと一時間ほど作業をし、最後に玉切りした丸太を、3～4名に分かれ、ロープで運び出しの体験をして終了となった。当日は、小雨の中、小学5年生31名は元気いっぱい、事故もなく無事終了しました。

(記 青木 克之 10期)

## ◆ 林道てくてく(下見)

日 2月18日(火) 9:30～15:30、晴れ、気温4～5℃

場 新松田駅～寄バス停～(秦野峠林道)～

やどりき水源林集会棟(往復)

スタッフ 森林協会 小笹専務理事、石渡和夫様

イ L内野⑨、黒澤⑧、古舘⑬、大原⑬

同行有志：白畑⑦、野田⑧、杉崎⑩、江頭⑬

2度にわたる記録的大雪で、2月14日の予定を延期しての下見となった。2月21日(金)の本番スケジュールに沿って、寄バス停まで予定通り到着。本番を想定し、寄バス停で、関係者紹介、挨拶、準備体操を実施。トイレ他必要事項の確認を終え、やどりき水源林入口まで旧道を、てくてく歩くこととする。本番ルートを確認しながら、やどりき水源林に入る。途中、秦野峠林道に入り、雪の影響を確認したが、本番当日は、歩行ルートから外すこととした。道すがら、自然観察を行いながら、歩行ルート上の樹木の名前を確認する。冬の花も葉もない木々も、冬芽、落ち葉などで、樹木の名前を知ることができる。下見では、やどりき水源林集会棟で昼食としたが、水源林内は積雪の為、本番は、水源林入口で昼食の予定。やどりき水源林からの帰路は、県道を歩き、寄バス停に到着。下見を受けての本番での必要事項を関係者で整理する。柔らかな日差しを浴びながら歩く林道は気持ちがいい。本番も、好天に

恵まれることを祈りつつ下見を終える。

(記 大原 正志 13期)

## ◆ 林道てくてく(本番)

日 2月21日(金) 9:30～14:30、晴れ

場 新松田駅～寄バス停～やどりき水源林(一部三廻部林道)

参 大人11名(応募者45名)

スタッフ 森林協会 小笹専務理事 他5名

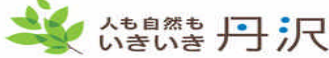
県 宇田川様、他1名

イ L内野⑨、黒澤⑧、大原⑬、古舘⑬

(森本⑤(緑の募金活動他))

45人の参加登録者があったが、2回の大雪での残雪を心配したせいか、実際の一般参加者は11人と少なく、4班に2～3人配分の少人数の班活動となった。主催者側の挨拶の後、ストレッチ体操、トイレ、安全確認を済ませ、班ごとに10:30頃、寄バス停前から下見で確認した小川沿いの民家の脇の道を通して「林道てくてく」をスタートした。樹木の冬芽や山繭(まゆ)などの観察、寄地区の変遷、水源林、保安林の役割の説明などインストラクターの特徴を出しながら、途中、まだ雪が残っているために今回断念した三廻部林道のゲートに立ち寄り、1時間半かけてやどりき水源林ゲート前に到着した。そこから水源林内の集会棟まで雪を踏みしめ歩き、ベンチに腰掛けて昼食をとった。12:40に集会棟を出発し帰路についた。帰りは中津川沿いの道路を通り新たな景色を楽しみながら13:30に寄バス停前に到着した。ここで解散、自由行動となった。参加者のかなりの人はロウバイ(蠟梅)園に向かった。暖かい日差しに迎えられ、参加者と森林協会様に感謝された有意義な活動となった。

(記 古舘 信生 13期)



**丹沢の自然再生に取り組む**  
 丹沢大山自然再生委員会ホームページをご覧ください。  
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

## 投稿概略フォーマットと略語の説明

日: 日付(できれば時間と天気も)

場: 場所

参: 参加者

県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財: ((公財)かながわトラストみどり財団) 看: 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ: インストラクター(○数字: 期) 研: 研修生

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)



## やどりき水源林 ミニガイド

### 3月のトピックス

いよいよ活動スタートです。  
(やどりき森の案内人 説明会風景)



(3月16日 広場にて 約60名出席)

### 4月の水源林

皆様お待ちかねの春です。草花の咲き始めです。鳥も活発に活動です。オオルリ、サンコウチョウ...今年も来てくれるかな!!

### 「森の案内人」情報

- 実施時間: 毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時, 1~2時間程度
- 集合: 水源林入口ゲート前
- 内容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- \*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ: (公財)かながわトラス  
みどり財団 TEL: 045-412-2255  
携帯: 090-8580-5348  
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)
- やどりき水源林までの道順  
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35~40分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

## イベント情報 & ご案内

### 野鳥展 開催

#### 『箱根森のふれあい館』

開催: 2014年3月11日~6月30日  
09:00~17:00 入館は16時30分まで  
大人 650円、平日中学生 650円/小学生 400円  
(※土日祝の小中学生は無料)  
●お問い合わせ・ご連絡  
箱根町立 森のふれあい館  
〒250-0521  
神奈川県足柄下郡箱根町箱根381-4 (箱根やすらぎの森内)  
TEL 0460-83-6006 FAX 0460-83-6003  
関連サイト: <http://www.hakone.or.jp/morifure>



### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>  
松本 保

Mail: [matsutamo@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutamo@jcom.home.ne.jp)  
Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865  
横浜市神奈川区片倉 2-1-50  
Tel: 090-6150-6173

Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037  
横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17  
Fax: 045-301-9401  
電話連絡先: 090-7962-3168  
Mail: [matsutamo@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutamo@jcom.home.ne.jp)

【別冊】水口 俊則

〒250-0871  
小田原市下堀 123  
Tel/Fax: 0465-42-7240  
Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)  
【CCで】竹島 明  
〒238-0045  
横須賀市東逸見町 3-7  
Tel/Fax: 046-825-9281  
Mail: [2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp](mailto:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp)  
原稿は随時受け付けています。

### ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源環境の  
保全・再生をめざして

ウタツグミ (上) と  
ツグミ (下)

“ウタツグミ”は29年前に  
横浜で確認された以来  
の出現だそうです。  
(撮影 相模川自然の村  
にて 松石氏 13期)



### 編集後記

★スマイルに会いたくて野外へ出かけたいくなる季節になりました。今年も沢山の出会いを期待しています! (赤崎)

★散歩の途中で見かけた小さな野草、ヨモギ・ツクシ・野蒜。これらを見つけると、春になったと実感します♪♪.... (大塚)

★春は本当にいいですね。気持ちの周りの気配についていけない程ウキウキです! (水口)

★4月から消費税が8%に対案はないかLEDの白熱電球は1/10の電力で対応可能です。60W→6W、単価580円如何でしょう! (小沢)

★今月号がWindows Xpで作成した史上最後の紙面です、なんて大きさですが、来月号からWindows7、Office2013で作成いたします。操作にチョット戸惑いがありますので早めの投稿をお願いいたします。(松本)

### ◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。  
郵便振替口座 00230-0-2454  
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。  
振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。  
(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保  
事務局: 竹島 明  
広報部: 小沢章男 水口俊則  
鈴木 朗 鈴木松弘  
大塚晴子 加藤愛子 赤崎さほり  
支援  
伊藤恭造 川森健司 谷川 克  
一時休み 真貝 勝 徳岡達郎  
(スタッフの出入りがありますが、次号掲載となります)

### やどりき水源林を始めとする寄近辺の様々な桜が楽しめます!!



宇津茂の  
しだれ桜

撮影  
(昨年 H25.04.13)  
飯澤氏 9期

春の山や散策、ボランティア活動の  
お帰りにお越しくださいませ!!  
美味しい飲物や食物がお待ちです。

## こ ま ち

### 山 麓 の オ ア シ ス ②

小田急 新松田駅  
踏み切り際

緑の募金箱協力店

他に

- ・土佐原の大きなしだれ桜
- ・中津川沿いのしだれ桜群
- ・中津川沿いの花壇  
等があります